

時代に合わせたやり方に変え  
残していきたい

柘原地区 民館主事 田原文男 さん(69)

私が子どもの頃の戦いは激しく、怪我が絶えないものでしたが、皆、平然としていました。現在、柘原小学校の生徒数は18名で、男の子は3分の1しかいませんので、今は戦いのルールが変わり、女の子も参加できます。今後はやり方を変えていく必要があるかもしれませんが、時代に合わせながら400年続けてきた行事をこの先も残せるよう、おろごめを主催する「柘原子ども育成会」と知恵を合わせて支援していきたいです。



(写真提供：垂水市)

おろの周りに立てるのぼり旗は、子どもたちが毎年書き替える。

## おろごめ

垂水市／柘原地区・柘原海岸

勇猛果敢な子どもを育てる

伝統400年のけんか祭り

旧暦の端午の節句にあたる6月5日の未明、海岸に掘られた穴の中で、砂まみれになって取っ組み合いをする子どもたち。その周りを取り囲む大人たちも、「もつと引つ張らんか!!」などと懸命に声を掛けます。この真剣勝負の「子ども合戦」が、垂水市柘原地区に400年間受け継がれる伝統行事「おろごめ(竝込)」です。

起源は江戸時代、島津藩の放牧場で行われた「馬追い」とされ、「二才馬を「おろ(竝)」と呼ばれる谷に「追い込む」というのが語源です。馬を追う勇敢な若武者のようにたくましい男子に育つようにという願いが込められています。

おろごめは、早朝3時45分から始まります。柘原小学校の全生徒が集まり、松明とのぼり旗を手に法螺貝を吹きながら山へ登り、山の神様に安全祈願をしてから始めるのが習わし。浜へ戻ると縦横4m、深さ1m50cmほどに掘られたおろごめに、子どもたちが馬役の子頭(小学5年生以下)と武士役の親頭(小学6年生)に分かれて入り、子頭が全て引き出されたら終了。熱戦は

鹿児島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな祭りが各地に残っています。今回はそんな祭りの中から垂水市柘原地区に伝わる「おろごめ」をご紹介します。

夜明けまで練り広げられます。

「どんなに激しくやり合っても、祭りが終わったらおしまい。後に引きずることはありません」と話す柘原地区公民館主事の田原文男さんもおろごめの経験者。昔は各地で行われていたが、少子化の影響もあり、残っているのは柘原地区だけ。「一月かけ、子どもだけで穴を掘り、作戦を練って戦うなかで知恵が育ち、心が養われ、連帯感も強くなる。私たちも大好きだったおろごめを、なんとか守っていききたい」と語ります。時代の波にさらされながらも守り継いできた子どもの祭りには、大人たちの切なる想いが込められています。



垂水市

### 垂水市

垂水市は、昭和33年に発足した総人口16,877人(平成25年4月1日現在)のまちです。鹿児島市と大隅半島を結ぶ海上陸上の要衝で、鹿児島湾に面した大隅半島の北西部に位置しています。写真は垂水市牛根麓の「道の駅たるみづ湯つどり館」の足湯。日本最大級の足湯として知られ、桜島を眺めながら足の疲れを癒す人々ににぎわいます。